

ブルンジ月報（2022年12月）

1. 内政・外政

- 1日、ブルンジ内務省は2023年中に約7万人のブルンジ帰還民を周辺国から迎え入れることを発表。(Agence Anadolu, SOS Media Burundi)
- 13日、ブニョニ前首相が、アメリカの制裁対象人物リストに再び戻される。米国は、彼が「深刻な人権侵害」に関与していると非難。(SOS Media Burundi)
- 19日、ブルンジ代表団は、ルワンダのブルンジ難民に自発的な貴国を促すためルワンダを訪問。(Rwanda News Agency)
- 22日、ブルンジの国会議員ジョセフ・ンタカルティマナ氏が東アフリカ立法議会 (EALA) の議長に選出された。(SOS Media Burundi)
- 29日、チビトケ県でコレラの流行が報告された。(SOS Media Burundi)

2. 経済

- 12日、アフリカ開発銀行 (AfDB) の新しいレポートによるとブルンジのビザ開放度ランキングは1年間で32位上昇し、EAC圏で2番目になった。(The East African)
- 12日、欧州連合 (EU) による経済制裁が解除され、ブルンジではビジネスが回復しつつあり、ブルンジ中央銀行が両替商を先月再開した。(The Citizen)
- 13日、経済都市ブジュンブラではガソリン不足に悩まされている。(SOS Media Burundi)
- 22日、数週間前から、ブジュンブラ市で燃料不足となっており、エネルギー担当省は、石油製品の管理も担当しており、燃料不足への手立てを約束している。(SOS Media Burundi)
- 28日、チビトケ県内のルワンダとの国境ポストが再開されてから2ヶ月以上経つが、人や物流は増加していない。ブルンジ側のCovid-19テストが原因ではないかという声がある。(SOS Media Burundi)

以上